# 初級日本語クラスにおけるオンライン口頭練習の実践
## －練習タイプ別の結果分析－

鮮于媚（埼玉大学）

# Teaching Japanese to Beginners on Online Oral Practice Platform
## -Analysis of Results by Practice type-

Mee SONU, Saitama University

要旨：本実践の最終的な目的はスピーキング・表現重視の初級日本語のクラスのコース設計と学習者による自主的学習の支援のための E-learning 教育システムの開発である。その手始めに、今回、コロナ過の影響で来日できなくなった短期留学生を対象にした日本語初級クラスに、オンラインでの遠隔授業に加え、オンライン口頭練習ツールの Speaking Everywhere (http://speaking-everywhere.com/) を導入し、実践を行った。参加した学習者は授業の前後に自主的に口頭練習を実施した。成果を検討するため、疑似スピーキングテスト（Elicited Imitation Test）および Q＆A のテストを実施した。テストの結果、既習文型に対する疑似スピーキングの正答率が高い水準であったものの、自発的な発話が求められるテストでは個人差が大きかった。

キーワード：オンライン口頭練習、疑似スピーキング、初級日本語、自発的発話

### 1. はじめに

本実践の最終的な目的は、スピーキング・表現重視の初級日本語クラスの設計および日本語学習者の自主的学習をお手助けする E-learning システムの開発である。目的の背景として、現存の初級日本語クラスには、スピーキングや口頭表現を練習する時間が足りず、文法積み上げ式の内容に偏りがちとなっているため、多くの学習者が知識としては日本語が分かるものの、自発的な日本語の発話が少ない現状があった。さらに、口頭練習については教室以外での練習量が把握できず、教室内での発話や一回性のテストだけで判断する場合が多く、有効な練習方法の提案や継続的なフィードバックができない問題点があった。

改善策を求められる中、2020 年度にはコロナ過の影響で、多くの留学生が来日できず、継続学習支援を目的とし、緊急措置としてオンラインによる日本語初級クラスを開設した。そこで、従来の方法だけではなく、ICT を積極的に活用すべく、日本語の自然な接触も制限される中、オンラインで口頭練習ツールを導入、実践することにした。

### 2. 授業の概要

今回、特別措置としての日本語初級クラスは、週 2 回の授業で、1 回 80 分であった。教材は電子ファイルとして公開されている「いろどり（https://www.irodori.jpf.go.jp/）」にし、

他の教材の内容も参考にした。今回、受講した学生は、4 名で 4 名ともゼロ初級であった。言語の背景としてフランス語、中国語、カンボジア語、チェワ語話者であった。4 名とも英語によるコミュニケーション能力があった。

### 2.1　遠隔授業の流れ

今回の授業は、ターム制で進み、週 2 コマずつ、8 週間、16 コマで、1 タームとなる。今回は、第 3・4 タームで実施したため、合計 32 コマ、授業を行った。本授業の到達目標は、初級前半の文型、語彙、文字を学習すること、日常会話・基本的なコミュニケーション能力を身に付けるようになることである。遠隔授業では、基本的な内容を確認し、遠隔授業後は、オンライン口頭練習ツールに各自接続し、口頭練習を実施する。受講者は、個別の ID と PW が付与され、個別練習ができるようにした。提出した課題については、教師が音声を聞いて、フィードバックを行った。

### 2.2 オンライン口頭練習の詳細

オンライン口頭練習は、Speaking Everywhere (http://speak-everywhere.com/、以降、SE) を利用した。SE は、ビデオや音声、イメージなどを組み込むことができ、学習者は自分の時間に合わせて、課題を遂行することができる。また、すべての音声は学習者ごとに録音・保存されるため、教師はフィードバックを文字や音声でできる。具体的には口頭練習の内容は鮮于（2021）の内容の通りである。すべての練習時間は、毎回 10 分以内であった。

## 3.　結果

口頭練習後の学習者の変化を検討するため、二つのタイプのテストを実施した。一つ目は、疑似スピーキングテストである。本実践の最終的な目的はスピーキング重視の初級日本語コースの設計である。そのため、学習者が最終的にはどのようなレベルまで到達するかについて検討をする必要がある。EIT は口頭運用能力を測定することができるテスト法の一つで、第一言語、第二言語の口頭運用能力測定に有効な方法の一つであると言われている（金子、2012）ことから、テストとして導入した。具体的な方法は、音声で文を提示し、学習者は、それを聞いて、復唱をする方法である。今後、初級レベルのみならず、スピーキングを中心としたレベル判定にも応用を考慮し、今回、取り入れることにした。テストは中間テストと期末テストの 2 回実施した。1 回目のテスト文は鮮于（2021） に掲載し、本稿では、2 回目のテストのみを示す（付録)。

二つ目は、Q&A テストである。Q&A テストは、さらに、二つのテストタイプに分かれ、その一つは、答えが決まっている受け答えのテストと、もう一つは、質問に対して自発的に答えられるテストであった。

### 3.1　疑似スピーキング（Elicited Imitation）テスト

本節では、1 回目と 2 回目のテストの正答率を比較し、レベルの到達度を確認する。いずれのテストも授業の時間内で練習した例文であった。1 回目のテストと 2 回目のテストの文はそれぞれ重ならない。採点は、正しく復唱できた単語やモーラを数えるだけで点数を計算し、採点を行った。図 1 はそれぞれの受講者別の平均正答率を示したものである。全体的に、高い水準であった。また、若干ではあるが、2 回目の方の正答率が高い。

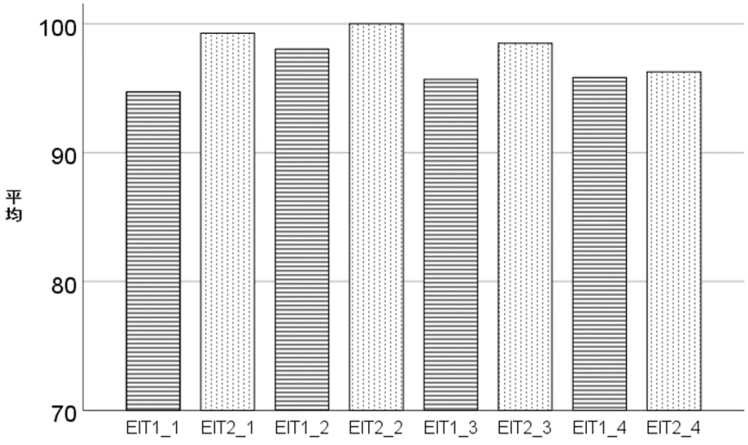


図 1：EIT テストの結果（EIT1: 1 回目のテスト、EIT2: 2 回目のテスト）

X 軸：受講者、Y 軸：正答率（単位：%）

### 3.2　Q&A テスト

本節では、Q&A テストの結果を報告する。Q&A テストでは、既習文を使って答える方式と自由応答の方式の二つのタイプで行った。採点は、教師 1 名による評価である。文の完成度を考慮し、数値化した。図 2 と図 3 の結果からいずれも個人差が大きく、既習典型文の正答率が高い学習者の場合、自由応答にも高い正答率を示した。一方、既習典型文の正答率が低い学習者は、自由応答はより低い傾向が見られた。正答率の低い学習者は、Q&A テスト時に、質問の内容が分からないため、答えられないことが多かった。

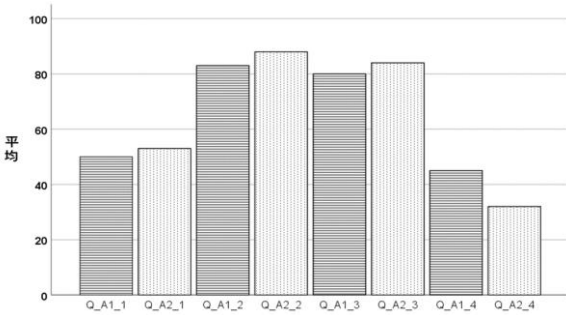


図 2（左）：Q&A テスト（典型文の応答）の結果

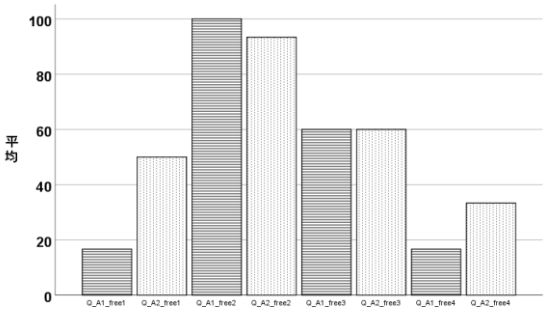


図 3（右）：Q&A テスト（自由応答）の結果

## 4. 学習者からの評価

今回、参加した学習者による評価を述べる。質問と意見は英語で行ったため、下記の内容は筆者による意訳した。

（1）全体的な意見

- プリケーションはいいと思った。語彙の練習にも文の構造についても復習することができた。私が難しいと感じたところは、自由発話の際に、質問に対してすぐに答えられないことと、思い出す時間が足りなかったことだった。
- スピーキング・プラットフォームはよかった。ただ、何回かエラーがあったり、音が切れたりしていたので、練習ができない時もあった。
- とてもいいプラットフォームだと感じた。特に、自粛期間中、在宅しながら、スピーキング練習ができる点は特によかった。

（2）練習のタイプ別の意見

－（シャドーイングについて）

- シャドーイング練習は、少し、複雑だと感じた。なぜなら、自分が発話してしまうと次の発話がよく聞こえないため、発話が難しかった。
- 長い文をシャドーイングすることが難しかった。
- 練習としてはいいと思う。ただ、私の場合、聞きながら話すことができなくて、難しかった。

－（モデル音声の反復ドリル）

- モデル音声がある反復ドリルは最もやさしくて、一番復習になると感じた。また、語彙や文の構造についても復習できた。
- 反復練習はとてもよかった。
- とてもいいと思う。

－（モデル音声なしの反復ドリル）

- モデル音声なしの反復は復習だけではなく、新しく学習をしていく感じがした。モデル音声ありとモデル音声なしのバージョンで練習すると完璧に学べると感じる。
- モデル音声がない場合は、ついていけなかった。
- とてもいいと思う。

－（自由応答）

- 自由応答は、文を作って答えることができるので、とてもいい練習となった。
- 質問が分からなくて、答えられない時があった。
- とてもいいと思う。

## 5. まとめ

今回、スピーキング重視の日本語コースの設計を目指し、オンラインで実施した初級日本語クラスの実践を行い、その内容を検討した。特に、限られた言語使用環境の中、口頭練習を取り入れた日本語の学習の継続の支援を試みた。結果を検討するため実施したテストの結果からは、既習文型の疑似スピーキングテストの正答率は高かったものの、自発性が求められる自由応答のテストに対しては、正答率にもバラつきがあり、質問が分からないことで答えられない場合があった。これらの結果は練習時に行った練習方法に関する学習者からの反応においても同様な傾向が見られた。つまり、モデル音声を聞いて、繰り返し、口頭練習をすることについては、肯定的な評価が多いものの、自発性を要する、すなわち、予測をしながら練習が必要となるシャドーイングや自由応答の練習は難しいため、練習ができない、または、質問の意味が分からない意見である。今後、より多くの学習者による実践を重ね、有効な練習方法を提案していく予定である。

**付記**

Speaking Everywhere のオンラインツールをご提供および教材作成に助言をいただいた Purdue University の深田淳先生に感謝を申し上げます。

**参考文献**

池田順子・深田淳（2012）「Speaking Everywhere を統合したスピーキング重視のコース設計と実践」『日本語教育』152 号、46-60.

金子恵美子（2012）「疑似スピーキング練習の第二言語自発発話における影響」『電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語』112、73-78.

鮮于媚（2021）「初級日本語クラスの遠隔授業の実践報告－オンライン口頭練習の一試行－」『埼玉大学日本語教育センター紀要』15、31-37.

**教科書・参考サイト**

小川 清美『Practical Japanese －Basic Expressions for Living and Travel－』IBC パブリッシング

スリーエーネットワーク 編著『みんなの日本語　初級 I 第 2 版　本冊』スリーエーネットワーク

いろどり https://www.irodori.jpf.go.jp/（最終閲覧 2021 年 6 月 15 日）

Praat http://www.fon.hum.uva.nl/praat/（最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日）

Speaking Everywhere http://speak-everywhere.com/（最終閲覧日 2021 年 6 月 15 日）

**付録**

EIT テスト（2 回目）

・日本の食べ物、何が好きですか。
・山田さん、どこにいますか？
・私は 7 時に起きます。
・窓を閉めてください。
・趣味は何ですか。
・どんなスポーツが好きですか。
・バスケットボールと水泳が好きです。
・休みの日は、いつも何をしますか。
・私はいつも掃除と洗濯をします。
・テレビはあまり見ません。
・スポーツは全然しません。
・どのぐらいかかりますか。
・3 時間ぐらいかかります。
・電池がほしいです。
・旅行に行きたいです。
・私はカレーにします。
・明日、学校へ来てください。
・魚が好きじゃないです。
・広い公園ですね。
・きれいな水ですね。
Q＆A テスト（2 回目）
・休みの日、いつも何をしますか？（×3 問）
・趣味はなんですか？（×2 問）
・何時におきますか？（×2 問）
・何曜日に学校へ行きますか？
・今、どこにいますか？
・冬休み、何をしたいですか？
＜自由応答＞
・あなたの趣味は、なんですか？
・今日、何時に起きましたか？
・あなたは、何曜日に買い物をしますか？
・春休み、何をしたいですか？
・あなたは、何がほしいですか？
・あなたは、休みの日、いつも何をしますか？